

## コロナウイルスを逆手に

コロナウイルスが流行し始めてから2年以上が経過したが、次々と変異ウイルスが登場して未だに終息の目途は立っていない。この間、SCE・NetではZoomやChatWorkの機能を活用して活動を継続している。このため、研究会のメンバーや幹事会のメンバーとの居酒屋での意見交換ができなくなっていることは残念である。

一方、SCE・Netには高齢のメンバーが多いにも拘わらず、これらのオンライン会議への対応ができていることは驚きでもあった。これは、メンバーの多くが論理的思考の素養を持っていることと、デジタル機器に若干の抵抗はあっても、それを何とか使いこなして活動を続けたいという意欲を持っている証だと思われる。

SCE・Netの活動でのデジタル活用はコロナウイルス以前から幹事会で話題になっており、一部のメンバー間でChatWorkの利用が始まっていたものの、オンライン会議は遠隔地のメンバーが移動せずに会議に参加するためのものであった。SCE・Netのデジタル活用は少しずつ向かっていく未来のことと考えられており、これほど早く全ての会議がオンラインになるとは考えられていなかった。しかし、3密を避けるべく、昨年へ続き、今年もSCE・Netの年次総会はオンラインでの開催となっている。

また、会議だけでなく、技術懇談会や講習会も試行錯誤ながらオンラインを活用して実施することができている。以前の参加者は東京近郊の方が殆どであったが、オンライン化することで遠隔地の方々の参加が増えており、最近ではSCE・Netに加入する方も全国各地から集まるようになってきている。

SCE・Netはこの逆境をきっかけとして、デジタルトランスフォーメーションへの一歩を踏み出し、未来への展望を開きつつある。ボランティア活動なので無理をする必要はないが、SCE・Netの活動に興味のある方には是非SCE・Netのホームページを検索して入会を検討して頂きたい。新しい世界が開けるかもしれない。

(SCE・Net 安全研究会 竹内 亮)